

第14回服部商店勉強会

3月14日AM10時から11時の日程で勉強会を開催しました。今回の開催を2月にしようと計画を立てていましたがアメリカ西海岸の港湾ストライキの影響を諸に当初1月20日に入港する予定でした昨年12月に買い付けしたホワイトオーク原木が1ヶ月遅れの2月20日過ぎの入港でした。1ヶ月ずれ込む事に対して誠に申し訳ないとは思いましたが、ここまで港湾ストライキの影響を受けるとは思いませんでした。

今回皆様に見て頂いたホワイトオーク原木の産地はアメリカ・オハイオ州産の日本向けのベニヤグレードの原木です。どうしてツキ板業者でもない服部商店がベニヤグレードを選んでいたらかの説明から始めます。

昨年12月に初めてオハイオに買い付けに行った時は、16インチから18インチまでの少し細いホワイトオーク原木を購入したいと現地に頼んでいましたが、細い原木がアメリカ国内の大手酒造メーカーの樽の大口の注文が有り、それに大量のホワイトオーク細目材が集められ品薄状態でした。

少しは現地で集まっていたが、品質が悪くそれを辞めて20インチ上の太い特選ベニヤグレードに変更し買い付けてきました。全くゼロでは帰れない状況でしたので。

又ロシア材のナラ材の価格は簡単に下がらない状況が今後も続くと思われている中で今後も安定供給が可能な商材が一番参考になるのはホワイトオークだと考えました。

勉強会の前々日にブラックウォールナット原木とホワイトオーク原木を製材して板を取っていたので参考に挽きたてと挽いた後の僅かの時間での色合いの変化も見ただけだと重います。

ところで昨年の3月は消費税の駆け込み需要があったせいか解りませんが昨年ほどの人は集まりませんでしたそれでも30人の方々がお見えになり勉強して頂けたのではないかと思います。



アメリカ広葉樹原木買い付け

3月16日から3月21日の日程でアメリカのウイスコンシン州とペンシルベニア州、そしてオハイオ州にアメリカ広葉樹原木を直接現地に買い付けの為に動かして来ました。

買い付けてきた数量はウイスコンシン州でブラックウオールナット原木 13本とレッドオーク原木 16本、ブラックチェリー原木 6本の合計 35本です。

この買い付けをした現場から約30分の所に小生の大事な仕入先の工場が有りますが、凄く忙しい日程だったので寄ってくることは出来ませんでした。

ところでウイスコンシンは11年振りの訪問です。前の時は小生の取り引きをしている広葉樹製材工場を見に行くのが目的でしたが、今回は目的が全く違うので凄くプレッシャーがかかりました。

今回のウイスコンシン訪問の目的は、比較的色の白いレッドオークとはどんな色合いの原木なのか。目の美しさはどんな目の感じなのか。価格は幾らか。安定供給出来るのか。小生と長く取り引きが可能か、等々調査する事は山のように有りました。全てとは言いませんが納得のいく内容の話も出来、買い付けも出来たと思います。→

次に訪問したのはペンシルベニア州です。ここでの買い付けはしない予定だったのである意味気は楽でしたが、しかしここでも来シーズンは買い付けを行おうと思っています。↓



ペンシルベニア州は何と言ってもアメリカンブラックチェリー材の有名な産地の一つです。ニューヨーク州のケインと並び立つ優良な産地ですが、チェリーだけでコンテナ1本は小生の実力では買えないのでブラックチェリーを半分、その他を半分と言った買い付けが出来るのかを見て来ました。その他とはホワイトオークとレッドオークとハードメープルです。この3樹種は最高の産地例えばハードメープルの一番良い産地はミシガン州です。あまり良くない産地はバージニア州です。ペンシルベニア州はその間くらいの品質だと判断をしてきました。この産地も5年先の服部商店を支える有力な産地になると思います。

最後に訪問して買い付けをしてきましたのがオハイオ州ですが、ここが一番ライバルが多く、日本人以外のバイヤー特に多くの中国人が群雄割拠してくるので熾烈な仕入れ競争を見ることが出来ましたし、中国人の商慣習『100コンテナ買うから安くして欲しい』と言う駆け引きも見られましたし、中国人の大手ブローカー達の行動も聞くことが出来ました。結論から言うと40年前の日本の国内の状況と全く同じです。

中国の大手の家具工場の買い付け方法は直接アメリカの大手製材工場から行なっていますが、中国国内には昔の日本と同じ小規模な製材工場・ツキ板工場が山ほど多数有り、その工場にコンテナ1個ずつ販売するのが中国の大手ブローカーだと言う事も解りました。つまり中国国内の経済成長を促す経済政策を取っていかうと全人代の今年の大会で発表されましたが、なるほどとも思いました。習・李体制が今後も続けば経済を安定成長させるために輸出主力体制から国内の経済発展の方に国民を導くと思われそうですし、そ

れに加えて中国とロシアの動向も木材価格に大きなインパクトを与えていることも肌で実感して来ました』が多少理解できたことは今後服部商店がどの方向に進んだらベターなのかが等の疑問に多少ともヒントが解ったと思います。



オハイオでは超特選原木のブラックウォールナット原木を 9 本、レギュラークラスのベニヤグレードのブラックウォールナット 10 本の合計 19 本買い付けて来ました。

2カ所で買ってきましたが支払いは全てドルの送金です。お金が入って初めて荷物をコンテナに積んでくれるのです。オハイオ分は、5月7日入港予定です。ウイスコンシン分は、5月13日入港予定です。

来期はアメリカ広葉樹の原木の直仕入れの倍増を考えています。来期以降も、日本国内に優良材が無い、ロシア材の高騰はまだまだ続くと思われるので、御客様に多くのネタと言うか選択枝を提供する

のが服部商店の役目だと考えているので違う今まで以上に服部商店の商品を是非ご購入して下さい。



今回の仕入れの目玉はブラックウォールナットの太い超特原木では有りません。アメリカ北部の極限られたエリアのレッドオークだと小生は考えていますし、早ければ今年の10月から11月には服部商店完全オリジナルのレッドオーク製材品を皆様に提供できると思います。

この北部のレッドオークは今一番危惧している危惧『木材価格の高騰が招く木離れ』対策です。これから扱おうとしている北部の色の白くなおかつ目の細やかでおとなしいレッドオークが、高騰し続けているアメリカ材のブラックウォールナット・ロシア材のタモ・ナラよりも使用感も良く、なおかつ値段も手ごろな価格だったら家具から住まいの内装、日曜大工、小物製作等に幅ひろく使っていただける性能を持った商品になると思いますしそういう方向に育てたいと考えています。

次のアメリカ買い付けの予定は次のシーズン11月～12月です。そこまでに総合判断をする夏場になると思います。本当に楽しみにして購入して下さい。下記の写真はアパラチア山脈です。



北海道の状況『2月・3月の広葉樹銘木市』から何を語る

北海道にまだ多くの優良材が有りますかと聞かれれば、答は NO です。ただし外国にない樹種があります。確かにその樹種の品質低下は著しいですが、それでも条件『原木の径級の変更（EX50センチ上→40センチ上・長さ3メートル上→2.4メートル上』を緩めて戴ければ良質材の供給は出来ると思っています。ただ何時市に出品されるかは全く解りませんので現在1年間に10回旭川で開催される銘木市をキャンセルすることは出来ません。

以上の述べたこと以外に小生は心配する事が有ります。それは市の開催の縮小は直ぐではないが、可能性としては有ると思います。5年前までは1年間に11回銘木市が開催されていました。それが現在は10回です。近い将来5年以内に市が絶対に減らない事はまず有り得ないと考えています。

外部環境『木材を取り巻くあらゆる変化』の変化は公平に我々木材関係者（製材業者～エンドユーザーを含む）に影響を及ぼしますが、しかし昔と違うのは外部環境の変化に付いて行ける経営者のすばやい行動と申しましょうか、巧みな経営は、努力していない業者とそうでない業者に分かれるのではないかと考えています。

電機メーカーを例にすれば日立・東芝等の重電メーカーとシャープ等の家電メーカーでは同じ電機メーカーでもマスコミ報道で解るように、業績に差が来ている事は経営判断の差ではないでしょうか。

材木屋は天然物を扱っている所以他の産業の常識は無理と言っているのは、エンドユーザーから必要とされる業者にはまずなれないはずです。外部環境の変化に付いていくためには何を变えないと行けないかと言う単純な事から始めたら良いと小生は思っています。又約10年の間に変化『基盤の服部・カツラの服部→無垢材の服部・エンドユーザーから見て開かれた材木業者・小さなマーケットでもユーザーから必要とされるメーカーに』し続けてきました。

しかしもっと凄惨な外部環境の変化が、近い将来訪れてもたじろがない業者に生まれ変わってればどんな事でも受け入れる業者になっていると考えるのは、身勝手な判断でしょうか。

広葉樹の王様と言う言葉が有ります。この言葉を知らない方が昨今増えているようですが、広葉樹の王様とはナラ材をさしています。このナラ材を扱わない事を主眼に経営をしてきた事が服部商店の本当の秘術（隙間のカツラ材を扱うことで少しでも競争が少ない樹種を扱う事である意味寡占化がし易かった）ですがそれはそれとして亡き父はこう『王者の木を扱えない業者は王道を歩めない』も言っていました。

と言うことは扱い方の変更とでも申しましょうか、外部環境の変化に付いていけるゴム鞣の様な会社に仕上げる事がこれからの最大の目標だと思っています。

ところで今後アメリカ直の仕入れ分は確実に増えると思いますが、外部環境の劇的な変化が有ったとしてもカツラ・ホオ・セン・マカバ・キハダ・シナ・クルミ・エゾヤマサクラ・バッコヤナギ・イチイ以上10樹種は北海道しか入手できないので確実に御客様の求められている品質の材を、注文を頂いている御客様に、小生は頑張って納めさせて頂きます。お約束致します。

今後のお知らせと御願い

服部新聞の発行日が少し遅れたりしていますが、多数の服部新聞の購読者の皆様から励ましの手紙『毎日被災地で頑張っています。復興現場は何も進んでいませんが、毎月送って頂ける服部新聞は凄く楽しみにしています。今後も辞めずに続けて下さい。』を数多く頂いています。今後も発行していきませんが、少数の方から最近服部新聞が封筒に入ったままおかれているのではないかと噂を聞きました。引き続き発行をしていきますが、今後取り入れて欲しい企画等有れば是非取り入れさせて頂きたく。別紙アンケートを用意していますのでお返事をいただける事をお願いいたします。なおご回答を頂いた方全てに服部商店オリジナル写真立て（写真参考）を送りますので御気軽にお返事下さい。

FAX 072-422-8577



アンケートをお願いします

1、服部新聞は欠かさず毎月読んでいる。

はい

いいえ

2、服部新聞は今後どのような事に取り組んで欲しいですか。アンケートに下記に様に記入してください。

例 1、服部雅章の趣味とか・2、服部商店の新商品について・3、将来の木材の展望について

会社名	
担当者名	
〒と連絡先ご住所	
お電話番号	
FAX 又はメールアドレス	

〒 596-0011
大阪府岸和田市木材町 16-1
株服部商店
TEL 072-438-0173.0511
FAX 072-422-8577
E-mail info@hattoriwood.co.jp